

解 禁

新 聞

ラジオ・テレビ・インターネット

令和7年2月13日（木）付 朝刊以降

令和7年2月12日（水） 17時以降

お 知 ら せ

令和7年2月12日

課 名	統計分析課 (経済統計班)	教育庁保健体育課 (健康・安全教育班)
担 当	渡辺、寺見	松村、井上
連絡先	(調査及び統計数値) 内線 2132 直通 (086) 226-7261	(左記以外教育一般施策) 内線 4948、4949 直通 (086) 226-7591

「令和6年度 岡山県学校保健統計調査報告書」の公表について

岡山県学校保健統計調査報告書（以下「報告書」）は、国の基幹統計調査である学校保健統計調査の結果を基に、県民の方にわかりやすく情報提供することを目的として、県独自で作成し公表するものです。

このたび、令和6年度報告書を作成しましたので、お知らせします。

令和5年度報告書（前年度分）は、感染症対策を優先したため、通常より公表時期が遅れ、令和6年11月公表となっています。

令和7年度報告書（次年度分）は、通常どおり令和8年2月公表の予定です。

記

1 調査項目等

- ・発育状態（身長、体重、年間発育量、肥満・痩身）
- ・健康状態（むし歯、アトピー性皮膚炎、ぜん息、裸眼視力）
- ・比較項目等（前年度・全国平均・親世代との比較、男女別、年度別）

2 報告書の概要（括弧内は別添報告書記載ページ）

（1）身 長（報告書 P2-3, 30-33）

- ・平均値推移：親世代以降横ばい傾向
- ・前年度比較：男子は6割程度、女子は5割程度の年齢で下回っている。
- ・過去最高値：男子13歳、14歳、女子8歳、9歳
- ・全国比較：男子は、7歳で同じ、他の多くの年齢で下回っている。
女子は、8歳で同じ、他の多くの年齢で下回っている。
- ・親世代比較：男子は、5歳、6歳、8歳、9歳、16歳、17歳で下回り、他の年齢で上回っている。
女子は、13歳で同じ、5歳、6歳、14歳、16歳、17歳で下回り、他の年齢で上回っている。

(2) 体 重 (報告書 P4-5, 34-37)

- ・ 平均値推移：親世代以降横ばい傾向
- ・ 前年度比較：男子は8割程度、女子は5割程度の年齢で下回っている。
- ・ 過去最高値：女子9歳
- ・ 全国比較：男子は、5歳、6歳、8歳、9歳、11歳、12歳、13歳、14歳、15歳、16歳、17歳の多くの年齢で下回り、他の年齢で上回っている。
女子は、15歳で同じ、5歳、6歳、8歳、10歳、11歳、12歳、13歳、16歳、17歳の多くの年齢で下回り、他の年齢で上回っている。
- ・ 親世代比較：男子は、5歳、6歳、15歳、16歳、17歳で下回り、他の年齢で上回っている。
女子は、5歳、12歳、15歳、16歳、17歳で下回り、他の年齢で上回っている。

(3) 年間発育量 (平成18年度生まれ (令和6年度17歳)) (報告書 P6-7)

- ・ 身 長：男子は12歳時に、女子は9歳時に発育量が最大になっている。
- ・ 体 重：男子は11歳時に、女子は11歳時に発育量が最大になっている。

(4) 肥満・痩身傾向児の割合 (報告書 P8-9, 38-39)

- ・ 肥満傾向児の割合 (前年度及び全国比較)：男子は、6歳、8歳、10歳、女子は、7歳、9歳、11歳、14歳、15歳、16歳で上回っている。
- ・ 痩身傾向児の割合 (前年度及び全国比較)：男子は、7歳、8歳、9歳、12歳、13歳、14歳、15歳、16歳、女子は、12歳、13歳で上回っている。

(5) むし歯 (う歯) の被患率 (報告書 P10, 40)

- ・ 被患率推移：昭和57年頃から減少傾向にあり、幼稚園、小学校は過去1番目、中学校は過去2番目、高等学校は過去3番目に小さい値となっている。
- ・ 前年度比較：幼稚園、小学校、中学校で下回り、高等学校で上回っている。
- ・ 全国比較：幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれの区分でも下回っている。
- ・ 親世代比較：幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれの区分でも下回っている。

(6) アトピー性皮膚炎の被患率 (報告書 P11, 41)

- ・ 被患率推移：平成18年から増加傾向にあり、小学校、中学校は過去1番目に大きい値となっている。
- ・ 前年度比較：幼稚園、高等学校で下回り、小学校、中学校で上回っている。
- ・ 全国比較：幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれの区分でも上回っている。

(7) ぜん息の被患率（報告書 P12, 42）

- ・被患率推移：平成6年頃から増加傾向にある。
- ・前年度比較：小学校、高等学校で下回り、幼稚園、中学校で上回っている。
- ・全国比較：幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれの区分でも上回っている。
- ・親世代比較：被患率が2倍程度となっている。

(8) 裸眼視力 1.0 未満の者の割合（報告書 P13, 43）

- ・割合の推移：小学校、中学校、高等学校で増加傾向にあり、また、年齢が高くなるにつれて大きい値となっており、高等学校は過去2番目に大きい値となっている。
- ・前年度比較：小学校、中学校で下回り、幼稚園、高等学校で上回っている。
- ・全国比較：幼稚園、小学校で下回り、中学校、高等学校で上回っている。
- ・親世代比較：幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれの区分でも上回っている。

参 考：学校保健統計調査の概要

(1) 調査対象

調査実施校に在籍する満5歳から17歳までの幼児、児童及び生徒の一部

(2) 調査方法

文部科学大臣が指定した県内163校（園）の抽出調査

※調査実施校は毎年見直しを行っている。また、発育状態は調査実施校の各学年に在籍する者のうち13,590人を抽出し、健康状態は全員（74,936人）を対象に調査を実施している。

(3) 調査時期

令和6年4月から令和6年6月の間に実施